

狭山ニュータウン地区活性化指針（素案）

狭山ニュータウン地区活性化指針とは

1 背景と目的

- 狭山ニュータウン地区は、本市の住宅都市としてのイメージ形成を担うとともに、まちづくりをけん引する人材を輩出してきました。
- 少子高齢化、核家族化、人口減少が進展する中、空き家や空き地の増加、買物弱者への対応、住宅や施設の老朽化などさまざまな課題が顕在化しています。
- 近畿大学医学部附属病院が移転を表明しており、本市の持続可能なまちづくりへの影響が懸念されています。
- これらの背景のもとで、地区の資源や魅力等を踏まえたまちの将来像を描き、その実現に向けた取組み等を示した「狭山ニュータウン地区活性化指針」を策定するものです。

狭山ニュータウン地区の概要

狭山ニュータウン地区は、昭和 40 年代に南海電気鉄道株式会社が主体となって開発した住宅地です。

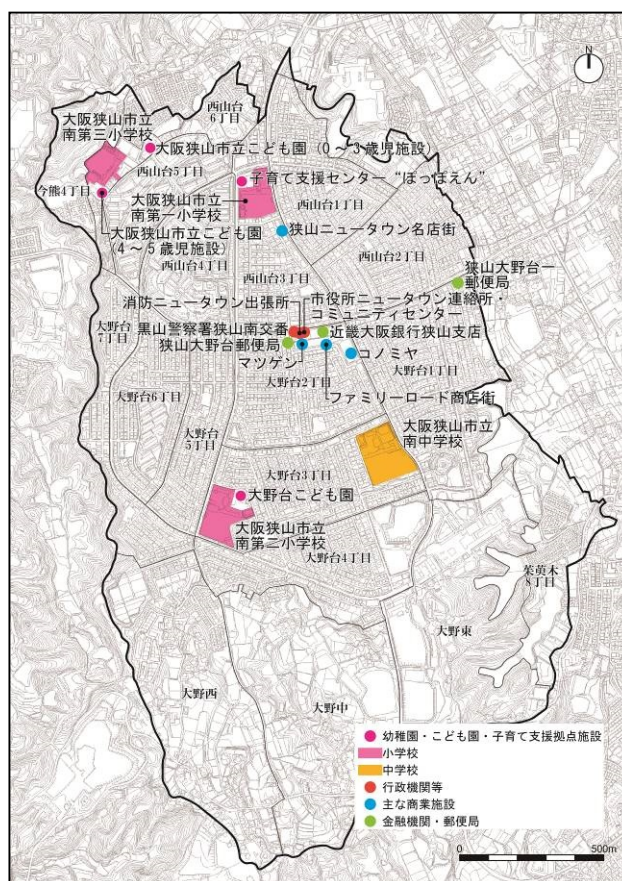
開発面積 230ha

計画戸数 5,000 戸

計画人口 20,000 人

平成 30 年 9 月末現在、7,081 世帯、15,124 人が居住しています。

本指針の検討にあたっては、狭山ニュータウン地区及びその周辺地域（南中学校区）を含めた議論を行いました。



2 活性化指針の位置づけ

- 狭山ニュータウン地区に関わるすべての人たちが連携し、まちづくりにおいて共有すべき方向性を示したビジョンであり、取組期間はおおむね 10 年間とします。
- 大阪狭山市総合計画や本市の他の計画と整合を図りながら取り組みます。

	狭山ニュータウン地区の資源（魅力）と課題
--	----------------------

- 人口減少や高齢化により地域活力が低下しており、新たな交流や活躍の場づくりによるまちづくり活動の活性化が課題となっています。
- 市外の子育て世代に選ばれるために、子育て環境のさらなる充実が課題となっています。
- 近畿大学医学部附属病院の移転への対応など、誰もが安全で安心して暮らし続けられる環境づくりが課題となっています。
- 路線バス等の維持や、空き家のまちづくり資源としての活用に加えて、計画的で快適な都市空間の維持更新が課題となっています。

	狭山ニュータウン地区の将来像
--	----------------

1 狭山ニュータウン地区の将来像とライフスタイル

3つの将来像において実現をめざすライフスタイル（「暮らし」の姿）を想定し、そのイメージを共有して活性化に向けた取組みを推進します。

将来像 1	多様な世代が暮らし、集い「交流」するまち
-------	----------------------

実現をめざすライフスタイル 「暮らし」の姿

- 身近な公園等で、住民や農業者などのグループがオープンカフェやマルシェ等のイベントを行っており、交流の場となっています。
- 南中学校区円卓会議やNPO等の地域活動団体では、多様な世代が交流する機会が増えることにより、世代交代が進み、まちづくりの活動を担う人が育っています。
- 地域防犯ステーションなど、地域ぐるみの見守りによって、子どもたちにふるさと意識が育まれており、将来は狭山ニュータウンに戻ってきたいという思いにつながっています。

将来像 2	誰もがいくつになっても健やかに「活躍」できるまち
-------	--------------------------

実現をめざすライフスタイル 「暮らし」の姿

- 高齢者になっても人とのつながりの中で活躍でき、日常生活を支えるさまざまなサービスを利用して、狭山ニュータウン地区で暮らし続けています。
- 近畿大学医学部附属病院は移転後も、引き続き南河内地域の基幹病院としての役割を果たすとともに、地域医療の充実に取り組んでいます。
- 誰もが健康づくりや生涯学習活動等に積極的に参加し、心身とも健やかで、いくつになっても生き生きと活躍しています。

将来像 3	狭山ニュータウンらしさを「発信」し続けるまち
-------	------------------------

実現をめざすライフスタイル 「暮らし」の姿

- 南中学校区円卓会議やNPO等の地域活動団体など、多様なまちづくり活動の情報が発信されており、自分ごととして参加につながる機会があります。
- 狭山ニュータウン地区の魅力や生活環境、空き家等の情報が発信されており、住み替えや転入を検討している子育て世代を引きつけています。
- 狭山ニュータウンらしさである、多様なまちづくり活動や担い手の魅力、緑豊かな住環境の魅力を発信し続けており、本市のまちづくりをけん引しています。

2 将来像実現のための基本的な視点と取組

5つの視点に基づく取組みを示し、将来像の実現をめざします。

基本的な視点と取組項目

基本的な視点	取組項目
1 新たなにぎわいやふれあいの創出	1-1 地区の魅力情報の発信
	1-2 住み替えや転入希望者への支援
	1-3 多様な住まいの供給・流通の促進
	1-4 地区内の施設を活用したイベントの開催
	1-5 地区内の空きスペースの有効活用
	1-6 地域活動団体の交流の促進
	1-7 周辺地域との交流の促進
2 子育て世代に選ばれる子育て支援・教育環境の充実	2-1 妊娠・出産包括支援事業等の充実
	2-2 子育て中の親への支援
	2-3 教育環境の整備
	2-4 地域ぐるみの青少年健全育成
	2-5 地域への愛着と誇りの醸成
3 日常生活を支えるサービスと支え合いの展開	3-1 地域包括ケアシステムの構築
	3-2 新たなサービス機能の誘導
	3-3 生きがいづくりや健康づくりの推進
	3-4 近畿大学医学部附属病院の移転への対応
4 快適で魅力的な都市空間の形成	4-1 まちづくりのルールの見直し
	4-2 安全・安心で、環境に配慮した住宅の普及
	4-3 空き家対策の推進
	4-4 道路等の計画的な維持管理、バリアフリー化の推進
	4-5 公共交通サービスの再整備
	4-6 ニーズの多様化に対応した公園の再整備と活用
	4-7 緑のネットワーク（回廊）の形成

基本的な視点	取組項目
5 地域の安全・安心の向上	5-1 自主防災組織の活動促進
	5-2 防災拠点の整備充実
	5-3 救急車の効率的な運用
	5-4 防犯対策の充実強化

活性化指針の具体化に向けて

- 住民やNPO等の地域活動団体は自分ごととして活性化に取り組むとともに、互いに連携することによって相乗効果が生まれるように進めます。
- 事業者、大学は、活性化に向けた取組みに連携・協力します。
- 行政は意見交換の場の立ち上げや担い手の育成など、活動促進に必要な支援を行うとともに、連携・調整の役割を担います。
- 活性化のモデル的な取組みを多様な主体が協働して実施し、共通のプラットフォーム（推進体制）の整備や活性化指針の具体化に向けた機運を高めます。
- 多様な世代が快適に生き続けることのできるまちとなるよう、多様な主体が連携を強めながら、将来像の実現をめざして狭山ニュータウンらしさを次世代に引き継いでいきます。

